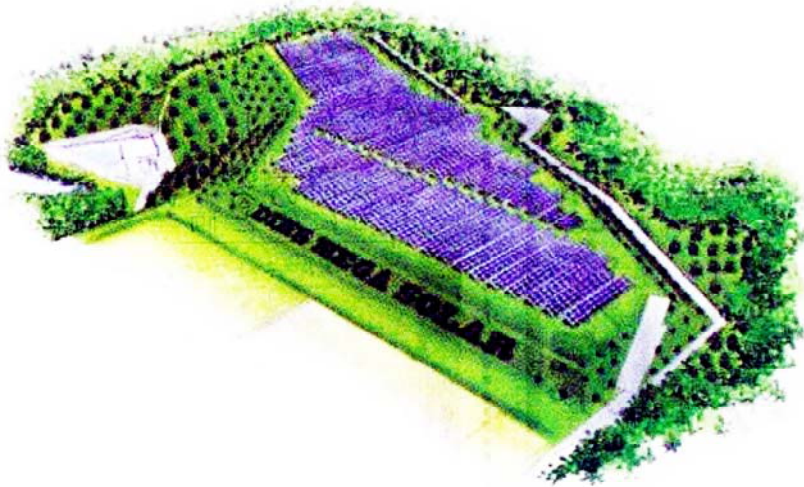


2MWソーラー発電施設を着工

大栄環境 関西初、民間処分場跡に



メガソーラー発電施設イメージ図

大栄環境（本部・神戸市、金子文雄社長、☎078・857・6600）は6月1日、関西圏の民間企業では初となる、管理型最終処分場跡地（大阪府和泉市）を利用したメガソーラー発電施設「DINS（ティンス）メガソーラー」を着工した。発電量は年間256万キロワット時。固定価格買取制度（FIT）を利用し、2014年3月から関西電力への売電を開始する予定だ。

発電施設の敷地面積は5万2870平方メートルで、東芝製の太陽光モジュールを9030枚

設置する。発電出力は2メガワットで、年間発電量は一般家庭約770軒分の電力に相当するという。関西電力に全量売電することにより、年間1億円の収入を見込んでいる。

同管理型最終処分場は今年4月に埋め立てを完了。近隣には、同じく管理型最終処分場跡地を利用した花と緑の公園「和泉リサイクル環境公園」があり、年間約35万人の来

園者に親しまれている。「DINS」は「Dai ei Inter Nature System」の略で「人間生活・産業・自然との共生」を目指す同社のキャッチフレーズから名付けられた。同社担当者は、「今回計画のメガソーラー発電施設は、埋め立ての完了した最終処分場の新しい姿。今後もエネルギー創出事業に注力し、社会に貢献していきたい」と話している。

中央発 埋立容量を約320万³m³拡大 三重開 民間で国内最大級規模に

大栄環境グループの三重中央開発（三重県伊賀市）は、供用中である「三重総合リサイクルセンター」の管理型最終処分場を増設する施設変更許可を取得した。2014年度中の完成を目指す。

同管理型最終処分場は、一般廃棄物および産業廃棄物の許可を取得。今回の増設許可により、埋立容量は約329万立方メートル増加して、616万5896立方メートルとなり、民間では国内最大級となる。

同グループは1979年の創業以来、収集運搬から最終処分までを請け負える一貫体制を整え事業を拡大。今年に入り、和歌山県御坊市内に産業廃棄物処理施設の新規設置許可を取得した他、バイオマス発電施設建設の計画なども進めており、環境創造企業として事業領域をさらに広げている。